

9月定例会
総括質問
 主な質問と答弁

白井 照人 議員

**新「絆」への
とは何か**

問 市長は選挙戦で「絆」という言葉を使っていたが、「絆」を本市の施策にどう反映させていくのか。

市長 未来を担う子供たちが確かな夢を持てる平塚にしていくことが自身の使命と考へ、政策公約を示した。行政運営の視点からの「絆」とは、人と人とのつながりだけでなく「組織と組織とのつながり」「市民と行政とのつながり」「国・県と市とのつながり」など、多方面からのつながりや連携だと考へている。

問 東日本大震災を契機に、人々の体の中に眠っていた「絆」が表に出てきた。日本人の基軸を取り戻す機会となると考へるが、何を考へたいか。

市長 市民の意見を取り入れながら、人と人、人と地域のつながりなどをいろいろな形で政策に反映させ、「絆」を中心に平塚のまちを発展させていきたい。

平塚自民クラブ

を高め、26万市民の公僕という意識を高めるべきだが、工事の積算ミスが発生するなど機能していない部分にどう対処したのか。

市長 大変恥ずかしい話であり、意識の啓発を含め、職員が担う公務の大切さ、重要さを考へさせるよう取り組んでいる。

問 このようなミスを防ぐため、職員を民間に出向させ、積算技術を学ばせることなどをすべきと思ふが、考へを伺う。

市長 職員の資質、技能を高めることを含め、研修の受講なども考へていく。

**歴史・文化のかおり
高き旧東海道の
まちなみ**

問 平塚市は東海道五十三

野崎 審也 議員

まちの活力と賑わい

問 湘南スターモール商店街のアーケード改修工事が始まるが、七夕まつりを活用した施策も含め、魅力あるまちづくりをどう構築していくのか。

経済部長 織姫・彦星をイメージしたキャラクターの公募や「湘南スターモール市」の開催、アーケードに小型の七夕飾りを通年で掲出するなど、改修を契機に新たな施策を検討する。

問 中心商店街のイベントの見直しや企画「コーディネート

次の宿場町として発展した平塚宿が原型である。市の景観計画では、東海道本通りとその周辺を「歴史軸」として位置づけ、優先的に景観づくりに取り組む場所としているが、地域の方々の意見・要望を把握しているのか。

まちづくり政策部長 高麗山の眺望を阻害する電柱の地中化工事や歩道橋の撤去、平塚宿本陣跡の整備、歴史軸にふさわしいバス停や街路灯、旧東海道を感ぜさせる道路の整備などの意見を把握している。

問 東海道歴史軸を観光のアイテムに活用する事はできないのか。

まちづくり政策部長 歴史観光資源として位置づけ、市の「観光マップ」で紹介

するのと同時に、平塚宿まちなみ景観協議会においても「平塚宿マップ」を作成した。また観光協会が立ち上げた「湘南ひらつか七福神めぐり」との連携も検討していく。

出縄 喜文 議員

**平塚市新エネルギー
ビジョン**

問 湘南スタイルを目指して、平成14年2月「小エネルギー集積型、湘南の光と風をエネルギー」と題し「平塚市新エネルギービジョン」が策定されている。これを基にした、本市の実現したい地域エネルギー像とはどのようなものか尋ねる。

環境部長 これまでのような化石燃料への依存は資源枯渇や大気汚染などの環境

で、高齢者自身の介護予防や介護保険施設の理解を目的としている。社会福祉協議会で会員登録を行い、活動するとポイントがたまり、一人年間最高5000円を限度に1000円単位で換金することができる。

問 現金の還付以外にも湘南ベルマーレのグッズや市名産品など、物品での還付はできないのか伺う。

福祉部長 平塚には多くの魅力ある企業や物品がある。ぜひ、検討していく。

**湘南ひらつか
パークゴルフ場**

問 現行の使用料400円

破壊を生じさせることから、太陽光や風力等、いわゆる新エネルギーの活用を推進していくことが必要である。新エネルギー導入を契機に、小さなエネルギーの暮らしや生産活動を目指す「小エネルギー集積型都市」を地域エネルギー像として目指している。

率先進導入の推進の観点から具体的なプロジェクトを提示しているが、特に「湘南平への小型風車の設置」「(仮称)シーサイド・マイクログリッドファーム整備構想」「バイオガス小型プラント」「公共施設への燃料電池の導入」の概要を伺いたい。

環境部長 新エネルギービジョンでは、導入ステップを重点・中期導入・長期導入の3段階に分けている。この4つの設備は中期導入

は、他市町の200円に比べ高い。早期に引き下げをするべきではないか。合わせてコースの見直しについても伺う。

社会教育部長 入場者数は目標の3万5000人に対し半分にも満たない。利用料は、オープンから約1年を迎えるので市の算定基準と照らし検討する。コースはバンカーの砂の量の調整やティッシュの場所の変更を検討し、日陰となる藤棚の設置を協議していく。

常任委員会の視察を実施

地方自治法の規定により、議会の常任委員会は所管する事務に関する調査を行います。平塚市議会の常任委員会でも必要に応じて行政視察を実施し、先進事例などの調査研究を行っています。



豊岡市環境基本計画について説明を受ける環境厚生常任委員会の委員

○総務経済常任委員会 (平成23年10月17日～19日)

- 「新産業育成事業」山口県防府市
- 「耕作放棄地対策」佐賀県武雄市
- 「中心市街地活性化基本計画」長崎県大村市

○環境厚生常任委員会 (平成23年10月17日～19日)

- 「高砂市民病院の経営状況」兵庫県高砂市
- 「認知症高齢者支援対策の推進」岡山県笠岡市
- 「豊岡市環境基本計画・環境経済戦略」兵庫県豊岡市

○教育民生常任委員会 (平成23年7月26日～28日)

- 「中学校給食の完全実施に向けた取り組み」長崎県佐世保市
- 「コミュニティと市の連携の強化について」福岡県福岡市
- 「通級指導教室スマイル教室の運営について」岡山県玉野市

○都市建設常任委員会 (平成23年7月26日～28日)

- 「長岡防災シビックコア地区整備計画」新潟県長岡市
- 「社会生活基盤の復旧」新潟県十日町市
- 「北杜市橋梁長寿命化計画」山梨県北杜市

※視察の結果は、それぞれの常任委員会において報告を行った後、冊子にまとめたものをご覧いただけます。詳しくは議会局 (☎ 21 - 8791) にお問い合わせください。